



京都大学

設置期間 2014年4月～2022年3月

寄附者 株式会社日本パブリックリレーションズ研究所

「Hyper-globalizationを生き抜くパブリック・リレーションズ」



## 教員

教授	山田 忠史
名誉教授	小林 潔司
特命教授	井之上 喬
特命准教授	尾上 玲円奈
日本パブリックリレーションズ研究所 ゲスト講師	
	鈴木 孝徳
	横田 和明
	高野 祐樹

## 教員紹介



井之上 喬 特命教授

専門分野

パブリック・リレーションズ

担当科目

パブリック・リレーションズ論

Message

パブリック・リレーションズ(PR)は、ハイパー・グローバル化が進む社会において企業や組織が目的や目標の達成に不可欠となるステークホルダーとのリレーションシップ・マネジメントのための最適な手法です。また、PRプロフェッショナルに限らず、将来、企業・組織の経営を担うエグゼクティブにとって必須となるスキルです。

出版物

[ 自著 ] 井之上 喬 (2006/2015). 「パブリックリレーションズ」. 東京：日本評論社、同中国語版 (2010/2018).

北京：東方出版社、井之上 喬 (2009). 「説明責任」とは何か」. 東京：PHP 研究所、Inoue, T. (2018).

Public Relations in Hyper-globalization. London : Routledge

[ 共著 ] Inoue, T. (2003). An Overview of Public Relations in Japan and the Self-Correction Concept, In K. Sriramesh, & D. Vercic (Eds.), The global public relations handbook: Theory, research, and practice. (pp.68-85). New Jersey: Lawrence Erlbaum Associate. Inoue, T. (2019). A New Public Relations for Corporation in the World of Hyper-globalization, in 3rd edition; in The Global Public Relations Handbook: Theory, Research, and Practice (pp. 139-148); Edited by Krishnamurthy Sriramesh, Dejan Verčić; New York: Routledge.

[ 監修 ] 井之上 喬 (2001). 『入門・パブリックリレーションズ』.

東京：PHP 研究所

同韓国語版 (2003). ソウル：YangMoon 出版



尾上 玲円奈 特命准教授

専門分野

パブリック・リレーションズ、マスメディア論、ジャーナリズム論、危機管理、ロビイング

担当科目

パブリック・リレーションズ論

Message

経営に必要な不可欠なパブリック・リレーションズについて、国会議員秘書やジャーナリスト、PR コンサルタントとしての経験や知見を基に講義します。PR の概念や戦略立案の手法をお伝えしていくことはもとより、マスメディア論やジャーナリズム論、危機管理やロビイングなど関連分野についても、皆さんと議論できればと考えています。

## 概要

地球規模で変化が進み、グローバル化が進む中、経済、技術、文化に対して広範で優れた知見を有する日本への世界の期待と関心は相変わらず高いものがある。

このハイパー・グローバル化について井之上は、「①経済・貿易(ビジネス)と②SNS によるヒューマン・コミュニケーション、③IoT、ビッグデータ、AI にみるシンギュラリティに繋がる破壊的技術革新の 3 つの要素から構成されるこれまでにないグローバル化の流れ」と定義している。

また、ハイパー・グローバル化は、分野を越えた多様なビジネス活動と真に国際的な企業の登場によるもので、20世紀型とはまったく異なる新しい環境を創出している。

個人や組織は、ハイパー化の進展とともに好むと好まざるとにかかわらずフェイクニュースを含む様々な情報の渦に巻き込まれている。とりわけコロナ禍にあって、混沌とした社会で目的達成するには、外部環境の変化を読み取り、ステークホルダーとの良好な関係構築を行うリレーションシップ・マネジメントを主体とするパブリック・リレーションズ(PR)が不可欠となる。

この講義では、21世紀最強のソフトウェアともいうべきパブリック・リレーションズ概念や頻発する企業不祥事に備える危機管理の在り方、倫理観と双方向性コミュニケーションに支えられた自己修正モデルなどにつき詳しく、かつ分かりやすく伝えていく。